

第2次岡山県立博物館中期目標

—地域に生きる魅力ある博物館を目指して—

平成26年8月 策定

岡山県立博物館

目 次

はじめに	2
1 使命と計画	3
2 資料収集と保存・活用	3
3 調査研究	4
4 施設の整備・管理	5
5 展 示	6
6 教育普及・学校教育との連携	8
7 県民参加の協働運営	10
① 広報活動の充実	
② 利用者のニーズや満足度を把握するためのアンケートの実施	
③ ホームページの充実	
④ 「岡山県立博物館友の会」の会員数の増加と事業の充実	
⑤ 県民が博物館活動に参加する仕組みとしてのボランティア受け入れと養成	
⑥ 関係機関や地域社会と協働の展覧会の開催	
⑦ 博物館協議会など外部意見の反映と外部評価	
⑧ 岡山カルチャーゾーン連絡協議会との連携	
⑨ 福祉の現場・老人施設等との連携	
8 組織・人員	13
9 財務・社会的支援	13
10 その他	14

はじめに

岡山県立博物館は、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に、昭和46年に設置され、以後、県民はもとより、岡山県を訪れる多くの人々に利用され、岡山県の歴史・文化の情報発信基地として、様々な事業を展開してきました。

しかしながら、昭和から平成となり、21世紀を迎え、博物館の存在意義が問われるなど、博物館を取り巻く環境が大きく変化してきました。こうした中、持続可能な運営を維持するため、平成21年3月に、平成25年度を中期目標とする「岡山県立博物館中期目標」を策定し、地域に生きる魅力ある博物館を目指してまいりました。

この5年間の評価に基づく成果や課題並びに岡山県教育委員会が平成22年に策定した「岡山県教育振興基本計画」、岡山県が平成24年に策定した「第3次おかやま夢づくりプラン」及び平成26年に策定した「晴れの国おかやま生き生きプラン」等を踏まえ、今後5年間の新たな中期目標を策定し、その実現に向けて努力していきます。

1 使命と計画

岡山県立博物館は、県内博物館の中核施設として、古代から連綿と伝わる輝かしい吉備の国の歴史と文化を保護保存し、県民共有の財産として後世に継承していくとともに、これらを全国に向けて情報発信することを使命とします。

この使命を遂行するため、「地域に生きる魅力ある博物館を目指して」平成30年度を目標年度として、岡山県立博物館のあるべき姿や目指す方向性を示し、安定した経営を行う工夫改善を行い、県民の信頼と支援を得るよう努力します。

2 資料収集と保存・活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。県民共有の貴重な文化財である資料を次世代に伝えるため、岡山県の歴史や文化に関する資料を中心に収集し、県民や博物館の諸活動への活用を図ります。

(1) 資料収集

- 資料収集は、購入、寄付及び寄託により行うことが原則ですが、本県財政の厳しい状況から、寄付、寄託を中心とした資料収集に努めます。
- 県教育委員会保管の県内出土文化財、文化庁所有の重要文化財についても、有効活用の観点から、毎年度、資料借用を行い、展示や調査研究に活用します。
- 長期寄託の文化財については、寄託者との連携を密にし、継続的に寄託されるよう努めます。

(2) 資料保存

- 収集した資料は、分類整理し、展示、調査研究、教育普及活動などに有効に活用します。
- 資料の良好な状態を保存するため、定期的に収蔵庫の点検を行うとともに、必要に応じて害虫・カビ等の防除対策を行います。
- 収蔵資料のうち、状態の悪いものについては、予算の範囲内で、計画的に補修を行います。

(3) 資料の活用

- 収集した資料は、本館の展示や県内・県外の各種展示に向けて積極的な活用を促進します。
- 資料の特別観覧（閲覧、撮影、出版物掲載等）等による収蔵資料の活用を図ります。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
資料の購入	文化財の県外・海外での散逸を防ぐとともに、劣化やき損のおそれのある文化財を護るため、保存管理の措置を講ずる必要のあるものについて購入に努める。	資料の購入件数	0点/年	必要に応じ予算措置

寄付資料の受け入れ	資料の安全な保管と展示公開や研究の促進を図るため、資料の寄付の積極的な受け入れを図ります。	新規寄付資料の受け入れ件数	30件/年	随時申し出に対応
寄託資料の受け入れ	資料の安全な保管と展示公開や研究の促進を図るため、資料の寄託の積極的な受け入れを図ります。	新規寄託資料の受け入れ件数	6件91点/年	随時申し出に対応
資料の適切な保管	収蔵庫の定期点検や資料の燻蒸等により、資料の安全な保管に努めます。	収蔵庫等の定期点検回数	13回/年	12回/年
展示室の資料保存環境の点検	展示室の定期点検により、資料の安全な保管に努めます。	展示室等の定期点検回数	50回/年	50回/年
収蔵スペース確保の検討	収蔵資料の増加に伴う、収蔵スペースの確保に向けた方策の検討を行います。	収蔵スペース確保の検討	随時	随時
		整理・整頓	4回/年	4回/年
収蔵資料の補修	緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施します。	収蔵資料の修復点数	2点/年	2点/年
資料の活用	資料の館内展示や特別観覧（閲覧、撮影、出版物掲載等）等による収蔵資料の活用を図ります。	収蔵資料展示点数	2,757点/年	2,000点/年
		特別観覧利用件数	140件/年	150件/年

3 調査研究

調査研究は、博物館事業の根幹をなす収集・整理・保存と展示や教育普及事業など博物館の諸活動を向上させるための重要な活動であることから、重点的に取り組みます。

- (1) 収蔵資料の学術的な研究を行うとともに、収集・保存・展示・教育普及事業など博物館の諸活動に関する研究を行います。
- (2) 県内外の研究者、資料所有者などとの交流を行い、館外の関連資料についても、幅広く調査し、調査研究成果や情報を公表します。

- (3) 学芸員は、調査研究計画を作成し、専門分野ごとに岡山県の歴史や文化に関するテーマを設定し、継続的に研究を行います。
- (4) 研究成果については、展示や博物館講座、教育普及事業などの博物館業務の他、学校教育と連携した館内授業や出前授業などを通じて広く県民に公開するとともに、研究成果報告書（研究報告）や博物館だよりなどを通して、県内外の社会教育施設や研究機関の利用に供します。
- また、このような研究成果を基に他館等への助言や展示指導を行うとともに、広く県民の求めに応じて、質問・相談等に積極的に対応します。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
調査研究活動の強化	調査研究計画を策定し、その成果を展示活動に活かします。	各学芸員の調査テーマの設定	6件/年 (各学芸員1テーマ)	6件/年 (各学芸員1テーマ)
調査研究成果の公表	研究報告等の出版のほか展示や教育普及活動を通じた成果の活用を図ります。	研究報告の発刊	1回/年	1回/年
		年報の発刊	1回/年	1回/年
		博物館だよりの発刊	1回/年	1回/年
		平常展、企画展、特別展等の開催	12回/年	12回/年
		博物館講座の開催	7回/年	6回/年
外部研究機関等との連携	他の博物館や大学、研究団体等との連携による共同研究を促進します。	共同研究テーマ数	1件/年	2件/年

4 施設の整備・管理

岡山県立博物館は、開館以来43年が経過し、施設の老朽化が進行するとともに、施設機能や規模等の面でも県立施設としては、十分な役割や機能が果たせてない状況です。

このため、利用者が快適で安全な環境の中で過ごせるよう、施設の適切な維持管理に努めるとともに、耐震状況を把握するため耐震診断を実施します。また、高齢者や障害者及び外国人等への配慮した施設の改善に努めます。

項 目	中 期 目 標 の 内 容	評 価 指 標	実 績 (平成25年度)	中 期 目 標 値 (平成30年度)
安全な施設の 維持管理	老朽化した施設の計画的な改善に努めます。	施設改善5カ年計画の策定	冷却装置交換	緊急性の高い事案から着手
	耐震化への取組	耐震化への取組		耐震診断の実施
外国人来館者への配慮	外国語表記の充実	案内板の他言語表記の充実	案内板に英語表記付加	中国語、韓国語への対応
危機管理体制の強化	防災意識の向上など危機管理体制のさらなる強化を目指します。	来館者事故数	0件/年	0件/年
		防災訓練の実施	2回/年	年2回開催
		安全衛生会議の開催	3回/年	年3回開催
利用環境の向上	指定管理者による館内施設の利用環境の維持管理とその向上に努めます。	入館者の満足度	74%	90%以上

5 展 示

岡山県立博物館は、岡山県の歴史や文化をテーマとして、県民文化の向上や郷土に対する理解を深めるとともに、県内の博物館の中核施設として全国に情報発信するため、特別展、企画展、近県と共同開催する交流展など様々な展示活動を実施しています。

今後は、より魅力的な博物館とするため、県民ニーズに合った、時機を得た企画による展示を行い、貴重な資料や情報を公開し、県民の知的財産の増進に寄与していきます。

また、中四国地域や首都圏及び関西圏の博物館と連携を深め、博物館の相互連携活動の充実に努めます。

特に、入館者に展示の意図をわかりやすく伝える努力をするとともに、多彩な関連事業を実施し、入館者の増加に努め、中期目標として年間5万人の入館者を目指します。

(1) 特別展

- ・特別展は、県内で実施されるイベントや、地域社会との連携を考慮し、県民にとって、時機を得た興味を喚起するテーマを設定し、年間2回実施します。

(2) 企画展

- ・企画展は、学芸員の調査研究成果を発表する場でもあり、県民にとって魅力あるテーマやメッセージ性のあ

るテーマを設定し、年1回実施します。

(3) 交流展

- ・交流展は、これまでの交流展の実績を踏まえ、中四国地域の博物館との連携を深め、相互連携活動を充実させます。また、首都圏や関西圏の博物館との連携を進め、岡山の歴史と文化を全国に情報発信するよう努めます。

(4) 平常展

- ・平常展は、展示内容、展示手法を適宜見直し、考古、美術工芸、文書、民俗、刀剣、備前焼の各分野ごとに収蔵資料の有効活用に努めます。また、各季節展においては、特別陳列を1テーマ設定するよう努めます。更に、岡山県の歴史が分かる常設展示ができるよう工夫します。

(5) 実施上の留意点

- ・展示会ごとに、開催目的、開催対象、期待する効果、展示方法、広報活動等を勘案の上目標を設定します。
- ・展示解説や展覧会に関連する記念講演会や実演など多彩な関連事業を実施します。
- ・特別展については、図録の発刊を行います。
- ・関連する各種団体や地域社会及び市町村等の支援が得られるよう共同開催に努めます。
- ・報道各社との連携を密にし、開催期間中に頻繁に報道されるよう努めます。
- ・県民にわかりやすい展示方法の改善工夫に努めます。
- ・外国人入館者の増加にともない、展示品の名称・解説等を多言語表記するよう努めます。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
特別展	県内で実施されるイベントや、地域社会と連携し、県民にとって、時機を得た興味を喚起するテーマを設定し実施します。	入館者数 実施回数 中期計画策定	11,051人/年 2回/年 5カ年計画策定	18千人/年 2回/年 5カ年計画策定
企画展	学芸員の研究成果を、県民にとって魅力あるテーマやメッセージ性のあるテーマを設定し実施します。	入館者数 実施回数 中期計画策定	4,119人/年 1回/年 5カ年計画策定	7千人/年 1回/年 5カ年計画策定
交流展	首都圏や関西圏及び中四国地域の博物館との連携を深め、相互連携活動を充実させます。	入館者数 実施回数 中期計画策定	6,758人/年 1回/年 5カ年計画策定	7千人/年 1回/年 5カ年計画策定
平常展	展示内容、展示方法を適宜見直し、各季節展では、特別陳列を行います。また、常設展示ができるよう工夫します。	入館者数 特別陳列 常設展示	10,623人/年 1回/各季節展	18千人/年 1回/各季節展 通年

各展共通項目	関連事業の充実を図ります。	記念講演会 実演等 展示解説	1.5回/1 展覧会 2.3回/1 展覧会 4.2回/1 展覧会	1回以上/1 展覧会 2.5回以上/1 展覧会 4回以上/1 展覧会
	展示方法の改善を図ります。	キャプション 解説シート 多言語表記 (名称・解説等)	24枚	改善 30枚 英語・中国語・韓国語表記

【入館者数実績】

年 度		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	備 考
入館者数	特別展	12, 418	12, 749	17, 674	19, 237	11, 051	
	企画展	20, 785	7, 969	6, 760	8, 676	4, 119	2回→1回24年度～
	交流展	6, 124	10, 909	5, 397	9, 655	6, 758	
	平常展	13, 675	9, 023	10, 619	11, 016	10, 623	
	計	53, 002	40, 650	40, 450	48, 584	32, 551	65歳以上有料 22年度～

6 教育普及・学校教育との連携

岡山県の歴史と文化に対する理解を深めるため、教育普及活動を計画的に実施します。また、小・中・高等学校の学習指導要領にもとづき、博物館を見学したり、文化財を観察したりする等の活動を取り入れ、学校教育での博物館利用を促進し、学校教育との連携に努めます。

(1) 吉備の国ジュニア歴史スクール

小学生を対象に県内の史跡等をバスツアーで見学するとともに、県立博物館で関連の学習を行い、学習の成果を各学校で発表する（2コース、各3日）事業を実施します。

(2) 博物館講座

① スタンダードコース

県民を対象に、本館学芸員を中心とした職員が博物館資料を活用し、研究成果を解説します。

[2班、各4日間、4講座、定員：各70人]

② スペシャルコース

県民を対象に、各分野で活躍する研究者による岡山の歴史と文化に関するテーマで講演します。

[4講座、定員：120人]

(3) 体験学習

① わくわく歴史体験ゾーン

子ども達を対象に、郷土や我が国の歴史に親しんでもらうため、参加体験型の資料により、遊んで学べる歴史体験ゾーンの充実を図ります。

(4) 館内授業・出前授業

県内の小中高校生を対象に博物館で実物資料に触れたり、展示を見学したりしながら授業を行います。また、本館学芸員が実物資料を持って学校に出向いて授業を行います。

(5) 展示解説

毎月、第2・4土曜日に本館学芸員が専門分野を中心に展示内容を解説します。特別展、企画展、交流展においては、毎土曜日に展示解説を行います。

(6) 博物館実習

県内大学を中心に、学芸員資格取得希望学生に博物館実習を行います。

(7) 中学生職場体験

県内各中学校からの要望に応じて、中学生の職場体験を受け入れます。

(8) 教員研修の実施

岡山県総合教育センターと連携し教員研修を実施します。
県内大学と連携し、免許更新講習を実施します。

(9) 吉備の国文化遺産映像記録作成・活用

テーマ別に岡山県の歴史や文化を概観できる映像資料を作成し、博物館内での映像視聴や岡山県立図書館が運営するデジタル岡山大百科での配信を通じて、広く利活用が図られるように努めます。

(10) ジュニア学芸員講座

中学生・高校生を対象に、将来の学芸員や博物館ファンを育成するため、博物館学芸員の仕事を実際に体験してもらう講座を実施します。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
吉備の国ジュニア歴史スクール	史跡や博物館をバスツアーで見学し、学習の成果を各学校で発表します。 (2コース、各3日)	実施コース数 参加児童数	2コース3日/年 86人/年	2コース3日/年 90人/年

博物館講座 ①スタンダードコース	本館学芸員を中心とした職員が博物館資料を活用し、研究成果を解説します。	開設講座数 参加受講者数	8講座(2班)/年 126人/年	4講座(2班)/年 140人/年
博物館講座 ②スペシャルコース	各分野で活躍する研究者による岡山の歴史と文化に関するテーマで講演します。	開設講座数 参加受講者数	4講座/年 100人/年	4講座/年 120人/年
体験学習 ①わくわく歴史体験ゾーン	参加体験型の資料により、遊んで学べる歴史体験ゾーンの充実を図ります。	参加体験型資料の充実	23点	平成30年度末で40点
館内授業	県内の小中高校生を対象に博物館で資料に触れたり、展示を見学しながら授業を行います。	実施学校数 受講児童生徒数	44校/年 2,582人/年	60校/年 3,000人/年
出前授業	本館学芸員が学校に出向いて授業を行います。	実施学校数 受講児童生徒数	27校/年 1,923人/年	30校/年 2,000人/年
展示解説	毎月、第2・4土曜日に本館学芸員が専門分野を中心に展示内容を解説します。特別展、企画展、交流展においては、毎土曜日に実施します。	聴講者数	15人/1解説日	20人/1解説日
博物館実習	県内大学を中心に、学芸員資格取得希望学生に博物館実習を行います。	受け入れ学生数	15人/年	20人/年
中学生職場体験	県内各中学校からの要望に応じて、中学生の職場体験を受け入れます。	受け入れ学校数	10校/年	10校/年
教職員研修	岡山県総合教育センターと連携し教員研修を実施します。 県内大学と連携し、免許更新講習を実施します。	連携事業の実施回数 免許更新講習実施回数	4回/年	5回/年 2回/年
吉備の国文化遺産映像記録作成・活用	テーマ別に岡山県の歴史や文化を概観できる映像資料を作成し、広く利活用を図ります。	作成テーマ数	10テーマ	30テーマ
ジュニア学芸員講座	中学生・高校生を対象に、博物館学芸員の仕事を体験する講座を開催します。	受入生徒数	19人/年	20人/年

7 県民参加の協働運営

岡山県立博物館は、県民参加と連携を深めることによって、地域や社会から信頼と協力を得ることができ、社会

に貢献することができます。このため次の事業を積極的に展開します。

(1) 広報活動の充実

博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人々に知ってもらい、博物館の利用者が増えるよう広報媒体を関係諸機関（報道機関・学校・社会教育施設等）に好機に配布するなど、情報発信機能を強化します。

(2) 利用者のニーズや満足度を把握するためのアンケートの実施

博物館に対する県民の意見が、博物館の運営に反映するよう、年間を通して来館者アンケートを実施します。

(3) ホームページの充実

博物館ホームページ（フェイスブックを含む）を一層充実させるとともに、タイムリーな更新に努めます。

(4) 「岡山県立博物館友の会」の会員数の増加と事業の充実

友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、充実、活性化を図ります。

(5) 県民が博物館活動に参加する仕組みとしてのボランティア受け入れと養成

地域住民の博物館活動への参画と来館者サービスの向上を図るため、展示解説ボランティアや博物館活動支援ボランティアの積極的な導入に努めます。

(6) 関係機関や地域社会と協働の展覧会の開催

館単独での事業運営には限界があるため、地域社会と協働の展覧会の開催や、複数の博物館の相互連携活動を推進します。

(7) 博物館協議会など外部意見の反映と外部評価

博物館の運営に関し、博物館協議会の意見等を尊重し、館の運営に反映します。また、博物館協議会による外部評価を実施し、博物館活動の改善に役立てます。

(8) 岡山カルチャーゾーン連絡協議会との連携

岡山カルチャーゾーン連絡協議会の中核的施設として、他の施設との連携を一層強化し、地域の文化の向上に努めるとともに、ゾーン内の心豊かなまちづくりにも積極的に参画します。

(9) 福祉の現場・老人施設等との連携

福祉・医療現場では、高齢者が懐かしさを満喫し、互いの思い出を語り合うことで機能の回復や高齢者ケアを果たす「回想法」の活用が進められています。当館でも、収蔵する昭和時代の民具等の資料を活用して福祉団体との連携を図り、高齢者が笑顔にあふれ、生き生きと会話のはずむ博物館の利用を目指します。

項 目	中 期 目 標 の 内 容	評 価 指 標	実 績 (平成25年度)	中 期 目 標 値 (平成30年度)
広報活動	広報媒体を関係諸機関（報道機関・学校・社会教育施設等）に好機に配布します。	記者クラブへの資料提供件数	25件/年	30件/年
		マスコミ取材件数	113件/年	120件/年
		広報手段の新規開拓	1件/年	1件/年
アンケートの実施	年間を通して来館者アンケートを実施します。	アンケートの回収率	9%/年	15%/年
ホームページの充実	博物館ホームページを一層充実させます。	HPアクセス数	109,579件/年	200,000件/年
		内容の更新頻度	月1回以上	週1回以上
岡山県立博物館友の会	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、充実、活性化を図ります。	友の会会員数	352人/年	400人/年
		会員の継続率	前年会員の81.7%	前年会員の90%
		友の会事業実施回数	40回	40回以上
		特別展等観覧者率	2.7%	4.0%
ボランティア受け入れ	展示解説ボランティアや博物館活動支援ボランティアの積極的な導入に努めます。	展示解説ボランティア	11回/年 32人/年	10回/年 30人以上/年
		支援ボランティア	11回/年 26人/年	10回/年 30人以上/年
地域社会と協働の展覧会の開催	地域社会と協働の展覧会の開催や、複数の博物館の相互連携活動を推進します。	共催団体数	1展覧会1.75団体	1展覧会2団体以上
		連携博物館数	2博物館/年	2博物館/年
博物館協議会	博物館協議会の意見等を尊重し、館の運営に反映させます。博物館協議会による外部評価を実施します。	協議会開催回数	2回/年	2回/年
		外部評価の実施	1回/年	1回/年

老人福祉施設等との連携事業	福祉団体等と連携し、昭和時代の民具等を活用し、高齢者が笑顔にあふれ、生き生きと会話のはずむ博物館の利用を目指します。	連携施設数 (館内への受入のみ)	2施設/年	2施設/年
---------------	--	---------------------	-------	-------

8 組織・人員

岡山県教育委員会と連携を密にし、館内各課間の情報の共有化を図るなど、効率的な組織運営に努めます。また、職員の適正な配置に努めるとともに、職員一人一人の能力や資質の向上に努めます。

特に、学芸員は博物館の専門的職員として、その力量を最大限発揮できるよう能力開発・資質向上に努めます。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
学芸員の資質向上	定期的に研修会へ参加し、能力開発・資質向上や最新研究成果の吸収・活用に努めます。	研修会への参加人数	10人/年	10人/年

9 財務・社会的支援

県予算が単年度予算であるため、計画期間における各年度の事業費等を含めた総支出額を推計することは困難ですが、施設運営の基本である入館料については努力目標を設定し、その達成に努めます。

また、積極的な事業展開や円滑な事業実施に向けて、文化庁補助事業による国費の確保や各種団体からの支援を積極的に求めます。

(ア) 参考

【入館料収入実績】

単位：千円

	H21	H22	H23	H24	H25	備考
入館料収入	4,571	6,112	7,697	8,677	4,300	

◎中期目標数値：8,000千円

平成22年9月から値上げ(65歳以上の有料化)

10 その他

(1) 事業実施の評価

当館の展示及び各種事業の効果については、今回策定した第2次中期目標に基づき、新たな評価指標を設定し、これらに基づく事業評価を実施します。また、評価結果については、岡山県立博物館協議会へ報告し、外部評価も併せて行います。なお、第2次中期目標の進捗状況については、毎年度、岡山県立博物館協議会へ報告し、意見を求め、業務運営の改善に反映させます。

(2) 第2次中期目標の見直し等

本目標は、平成21年に策定した中期目標に対する評価に基づく成果や課題並びに岡山県教育委員会が平成22年に策定した「岡山県教育振興基本計画」、岡山県が平成24年に策定した「第3次おかやま夢づくりプラン」及び平成26年に策定した「晴れの国おかやま生き生きプラン」等を踏まえ策定したものです。今後、県立博物館を取り巻く社会状況に著しい変化が生じた場合は、目標期間中にもかかわらず、必要に応じて見直します。